

わがまち紹介

阿見町

地域力が高く
誰もが幸せに暮らせるまち

鈴木伸
株式会社筑波銀行 阿見支店長



阿見町長
千葉繁氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。
今回は茨城県阿見町です。筑波銀行阿見支店長 鈴木 伸が阿見町長 千葉 繁氏にお話を伺いました。

市制に向けた機運醸成と情報発信

2024年度から「阿見町第7次総合計画」がスタートしました。「みんなでつくる共生のまち」をまちづくりの基本理念とし、10年後のまちの姿を「地域力が高く誰もが幸せに暮らせるまち」と定め、各分野の施策に取り組んでいるところです。

阿見町では子育て世帯の転入が続き、2023年10月に常住人口が初めて5万人を突破しました。こ



5万人達成記念セレモニー

れを受け、現在、「令和初」の市制施行に向けた準備を進めています。2024年4月1日に「市制施行準備室」を設置し、2024年度の主要事業の一つとして「市制施行推進事業」を実施しています。

市制施行に向けてまず大切なことは、「町民の皆さんにご納得いただき、喜んで市制に移行する」という機運を醸成することです。そのため、町民向けの説明会の開催や、広報紙、公式ウェブサイト等での積極的な情報発信など、町民の疑問や不安の解消に努めてまいります。

移行の時期については、2025年の国勢調査の結果を踏まえ、早ければ2026年度を目指しています。

地域力の向上を目指して

町の人口が増えるなか、地元出身者と転入者が関わり合いながら地域力の向上を図っていくことが重要と考えています。

2018年に町長に就任して以来、地域力向上のための具体的な政策を「政策実現プラン」としてまとめ、

進捗・達成率を管理・公表しています。

2021年度までの1期目は「教育」「参加」など6分野の約束(ビジョン)、24の公約(ミッション)を掲げ、すべて達成することができました。

2022年度から2025年度までの2期目は、SDGsの推進および12項目のテーマ、60の政策に取り組んでおり、2023年度までの進捗・達成率は73.9%でした。

自治意識の向上と担い手育成

1期目で達成した公約の継続、拡充を視野に、2期目の公約のなかで特に重視している政策は「地域予算」と「人材育成」の二つです。

「地域予算」とは、自治意識の向上を目的とするもので、町民から一度納めてもらった税金を一部地域に戻し、地域住民の話し合いによって地域の課題解決のための予算として使ってもらう町民参加型の制度であり、2020年度から実施しています。

小学校区を基本に、まずはモデル地区として「旧実穀小学校区」「旧吉原小学校区」において予算規模約50万円で実施し、その後、話し合いの地域を8地区、9地区と拡大していきました。現在は、11地区(67行政区)に各行政区の代表2名ずつからなる「地域づくり会議」が設置されており、2023年度はその会議ごとに90～120万円の予算枠で地域課題を話し合い、町へ予算要望書を提出していただきました。

地域予算の具体的な使い道は、防犯カメラの設置や防災用備品の購入、地域イベントの資機材購入などとなり、3月議会の予算議決を経て翌年度に執行でき、スピード感をもって地域の課題に対応できることが特徴です。

また、「地域担当職員」として地域づくり会議ごとに町から3人の担当職員を配置しています。自分たちが進めている施策は「地域にとって正しいものか、本当に必要な施策は何か」、そのようなことを地域住民とともに考えることができ、職員の学びの場にもなっています。

もう一つの最重要政策は「人材育成」です。地域の課題解決や将来のまちづくりを担う人材育成を目的として、主に「高校生会」「あみ未来塾」「町民討議会」を実施しています。

「高校生会」は2023年9月24日に設立しました。町内にはボランティア意識の高い高校生たちがたくさんいましたが、相談先や何をしたらいいかわからないという悩みを持っていたため、活動のフィールドとして約17年ぶりに高校生会を復活させました。

現在、様々なボランティア活動で活躍してくれています。初年度は「さわやかフェア」などの町の事業をはじめ、子ども会育成連合会や社会福祉協議会のイ



「高校生会」も参加して行われた小学生向けの折り紙イベント

ベントなどに参加してくれました。2年目は、福祉関係の団体への協力や、図書館での読み聞かせなども予定されており、活動の幅を広げています。また、あみプレミアム・アウトレットに来たお客さんを町内に滞留させる仕掛けについても提案してもらいました。

高校生たちは、イベントなどの機会に私に声をかけてくれるのですが、その発想の広さと発信力の高さにはいつも驚かされます。これからのまちづくりでは、このような若い人たちが中心となって活躍して欲しいと思っています。また、将来的には一度町外に出てしまってもかもしれませんが、高校生会の活動でできたつながりが、町に戻ってくる動機になってくれれば、とてもうれしく思います。

「あみ未来塾」は、まちの未来について興味を持ち、さらには地域のリーダーとして活躍する人材の育成を目的とするもので、2023年度から実施しています。

第1期のメンバーは、医療機関や商工会関係者、自衛隊員、教師など幅広い職業の約30人です。2023年9月27日～2024年3月14日の日程で全7回の講座を開催しましたが、大学の教授など幅広い分野の専門家が講師として喜んで協力してくれました。

最終日には、「阿見町をこんなまちにしたい」というテーマで卒塾プレゼンテーションを実施しました。たとえば、阿見町で同じ中学校に勤務する先生3人のチームからは、「阿見町全体をテーマパーク化しよう」という提言がありました。

これから2期・3期と回を重ねることで、人的交流や個別のテーマ研究などを通して町のシンクタンクの役割を担うようになるなど、未来塾が発展していくことを期待しています。

「町民討議会」は、広く町民から意見を聴くとともに、地域のリーダー発掘と育成につなげることを目的とするもので、2019年度から継続して実施しています。

若者から高齢者までの幅広い年齢層の20～50人程度が参加していますが、各回テーマを設け、参加者が班ごとに分かれて話し合うワークショップ形式が特徴で、小さな声でも良い意見は生かせる仕組みになっています。

討議会の参加者からは中心的な存在となるリーダーも育ってきました。将来は、その方たちが実行委員会形式で自立的に開催するようになり、これまで以上にまちづくりに関する提言をしてくれるようになって欲しいと思っています。

町への愛着を育むために

市制施行への準備と連動して「シティプロモーション」にも力を入れており、2024年度の主な施策として「広報・シティプロモーション戦略」の策定に取り組んでいます。

市制移行にあたっては、さらなる人口の増加や移住・定住の促進が必要になってくると考えますので、町の多様な魅力を様々な手段で、町内外に発信していくことが大切です。

民間の「住み続けたい街ランキング2023(茨城県版)」で阿見町は全体の5位でしたが、調査項目の中で「誇りがある」「愛着がある」の数値が低いという結果も出ています。町外からの転入者が多く、まだ「地元」意識が育っていないことが要因の一つと分析しており、町内にまちの魅力を伝える手段としてのシティプロモーションがとても重要だと考えています。また、「高校生会」「あみ未来塾」「町民討議会」などで若い世代がまちづくりに関する提言や活動をしていくなかで、郷土愛が育まれることも期待しています。

若者・子育て世代への支援

「若者・子育て世代」をターゲットにした政策を積極的に進めてきたことも、若い世代の人口増加につながっています。

これまで18歳までの医療費無償化をはじめ、ランドセルの無料配布、給食費無償化の拡大、町内に東京医科大学茨城医療センターが立地する強みを生かした病児保育施設の設置などの支援を行ってきました。

加えて、荒川本郷地区をはじめとする良好な住環境の創出を着実に進めてきたことも人口増加の要因の一つに挙げられます。若い世代の増加は高齢化率の抑制にもつながり、工業団地等の働き手確保の面でもメリットがあります。

一方、若い世代の増加により保育、学校教育の環境整備が課題となっています。現在、保育施設での待機児童はゼロですが、荒川本郷地区での人口増を背景に、より一層保育のニーズが高まることが予想されます。この地区にはすでに3つの保育施設がありますが、今後さらに保育施設の整備が必要だと考えています。

また、本郷小学校では、児童数の増加にともない教室が足りなくなっており、増築を進めているところ

です。さらに、町内の子育て支援施設の充実に向け、「子育て支援センター」と「児童館」の機能を併せ持つ「(仮称)子育て支援総合センター」の整備を進めており、2026年度の開館を予定しています。



入学祝い品のランドセル

立地条件の良さを生かして さらなる企業誘致を

転入者の増加や働く場所の確保のため、企業誘致にも力を入れています。町内には現在、「福田工業団地」「筑波南第一工業団地」「阿見東部工業団地」の3つの工業団地があり、53社の優良企業が立地し、約7,000人が働いています。また、「あみプレミアム・アウトレット」の周辺で「阿見吉原土地地区画整理事業」を行っています。計画人口は約2,600人、業務系用地はすでに完売し、ヤンマー、ネグロス電工、西濃運輸など20社以上が進出しています。

阿見町には圏央道のインターチェンジが2つあり、成田、常磐道、京浜地区にも近いという立地条件の良さが企業の進出につながっていると考えます。その1つ、牛久阿見インターチェンジの周辺には68haの未利用地があり、土地利用の検討を進めています。2024年3月には「実穀地区土地地区画整理組合設立準備会」を結成し、事業の推進について、90%以上の地主さんの仮同意を得たところです。造成、誘致はまだ先のことになりますが、まちの未来につながる重要なプロジェクトです。

筑波銀行に期待すること

資金を必要としている企業への融資を最優先に、豊富な情報を生かした経営のアドバイスやDX、GXへの対応を指導していただければ幸いです。また、地域に根ざした銀行として、行政職員に対する民間企業の視点での経営に関するアドバイスや人材派遣などお願いできればと思っています。

加えて、いま新規に農業を始めたいという人が増えています。こうした人への独立支援や販路拡大支援も大いに期待しているところです。

(取材日：2024年4月26日)

わがまちの特産品

阿見町

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

阿見町では、豊かな自然環境を生かした農業が盛んです。レンコンやスイカ、メロンなどの農産物をはじめ、町内産の農産物を原材料としたお酒など豊富な特産品を取り揃えています。

レンコン

阿見町を含む霞ヶ浦の湖岸一帯は日本一のレンコン産地。「先が見通せる」として縁起が良く、おせち料理にも欠かせません。阿見町のレンコンは、味はもちろん形も良く、贈答用にもお勧めです。2017年度に県の銘柄産地指定を受けています。



大玉スイカ

阿見町は水はけの良い土壌と温暖な気候に恵まれ、50年以上の歴史を持つ大玉スイカの産地。糖度が高く、新鮮でシャリシャリとした口当たりが特徴のおいしいスイカ。2010年度に県の銘柄推進産地指定を受けています。



阿見グリーンメロン

サイズが非常に大きく、15度以上の高い糖度と飽きのこない爽やかな甘さが特徴。生産数が少なく、出荷時期が6月下旬から1か月半ほどの短い期間にのみ市場に登場する希少なメロンです。



たけのこ

阿見町は総面積に対する竹林の割合が茨城県1位で、たけのこが多く収穫されます。春には新鮮なたけのこを使った料理フェア「たけのこほっぺ」を開催。町内の飲食店でも個性あふれるたけのこメニューをいただけます。



常陸秋そば

阿見町のそば作りは、地元農家と茨城大学農学部の学生の共同プロジェクトから始まりました。2017年度に続き2022年度、2023年度にも「全国そば優良生産表彰」「茨城県そば共進会表彰」において受賞するなど、品質の良いそばの産地として認められています。



さつまいも

紅はるか（さつまいも）は甘いだけではなく、甘さの後にくるすっきりとしたあと味が特徴で、干し芋でも楽しめます。冷凍焼き芋「紅せれぶ」や干し芋も商品化しています。

ご紹介した阿見町の特産品は、ふるさと納税の返礼品としてもご利用いただけます。ぜひ「おいしい阿見」をご賞味ください。

ふるさと納税や返礼品について詳しくはこちらから▶



お酒

阿見町は、酒造会社などと協力し、町内産の農産物を使用した新商品開発を目的にお酒造りを行っています。

町内産ミルキークイーンを使った日本酒「桜翔」^{さくらしょう}、町内産常陸秋そばを使用した焼酎「桜蕎」^{さくらそば}、島津地区で採れる南高梅を使った梅酒「華梅」^{はなうめ}の3種類があります。



わがまちの取り組み

阿見町はSDGs未来都市に 選定されました

写真は内閣府提供

▲自見はなこ地方創生担当大臣からSDGs未来都市選定証を受け取る千葉町長（5月23日内閣府にて）

地域力で実現する持続可能なまちづくり

